

俳句

大津俳句会

あめつちを全開にして花の散る

井芹眞一郎

大河への思ひを乗せて花筏

秋山 恵子

花びらを集めて走る風のあり

市原 初女

花吹雪浴びて思ふは母の事

大塚喜久子

立ち上がる十二単の凜として

佐賀 久子

黄すみれの大観峰を染め上げし

松尾 昭雅

住みなれし終の住処よ朧月

岡崎 浩子

風光る復興の橋渡るとき

森山美穂子

青葉山肺の奥まで碧くなる

佐澤 俊子

俳句

つのはな句会

木の芽風くすぐる耳と胸の洞

矢嶋 道子

やわらかな光幸せ ねこやなぎ

水野 春子

春霞 幻想の街の混迷す

梅木トキエ

鶯よ よく歌う妹でした

塚本 洋子

花筏ブラックホールへあと五秒

柴田しのぶ

春の大橋 今も渦巻く震災禍

志賀 孝子

さくらクレヨンさくら色から描く櫻

田上 公代

胸底に激震の余波四月来る

木庭 杏子

3・11飛行機雲のメッセージ

上杉 波

俳句

大津短歌会

萌え出る若葉の如き乙女あり長き黒髪ゆらしつつ行く

吉永 恵子

この朝寒波に降れる淡雪に庭紅梅あわれ覆わる

鞍 岳志

忘れんと繰り返し行く道をふと忘れしや踵返して

管野 静

ゼロ歳の男子の曾孫その笑顔這うも泣くのもまことかわゆし

豊岡ミツル

落暉背に意思あるごとき黒き影思惟なき吾はそれに従きゆく

坂本 杲子

長々と留守にしていし我が家のいたみをぬぐう熱きタオル

渡邊佐代子

春風や頬をひんやり撫で行けり姿見えねど懐しきかな

小平 善行